鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム

令和４年度　第３回会議資料

2023年1月31日（火）

©YACHIYOEngineeringCo.,Ltd.

次　第

１．開会あいさつ

２．（仮称）鳥取空港航空機利用・地域交通戦略　の内容

（１）第1回、第2回会議の振り返り（意見、課題）

（２）出口戦略の基本的な方向性

（３）出口戦略の実施計画（内容、役割分担、スケジュール）

※第2回会議以降の各関係者との調整事項も併せて報告

（４）令和５年度以降の進め方

３．意見交換、次年度について

４．閉会

（仮称）鳥取空港航空機利用・地域交通戦略の構成内容

資料１

第1回、第2回会議の振り返り

これまでの意見を振り返り、
本会議で取りまとめる出口戦略の方向性へとつなげます

©YACHIYOEngineeringCo.,Ltd.

第１回会議（7月開催）での主な意見

■主な意見

分類	課題
移動方法が不明 移動出来ない	・鳥取砂丘等の観光地への移動方法がわからない、移動手段がない。
ルート	・ループ麒麟獅子バスは鳥取砂丘や鳥取城跡などを通っているが、空港の連絡バスとの兼ね合いによって、空港を経由しない）コース取りとなっている。調整はできていない。
時間	・バスの賀露循環線は飛行機の遅延・運休と路線バスの定時定路線という特性から調整は難しい。 ・隙間時間について、どのように過ごすかが課題となる。 ・鳥取大学前駅が最寄り駅だが、バスの時間帯がバラバラ。
その他	・現状キャッシュレスや電子化は進んでいない。 ・定額タクシーは、他の空港ではかなり安い運賃でやっている、組合も考えていかなければならない。 ・アンケート調査やビッグデータをどのような方向性で使うか、どう克服するか明確にする必要がある。 ・コロナ禍が収束した後、若い人や外国の方にフィットする情報を提供する仕組みを構築。

■第１回会議の要点

- 鳥取砂丘という目玉の観光地へのそもそもの移動手段がなく、移動方法の案内も不十分
- ループ麒麟獅子バス、賀露循環など、既存の路線バスの活用可能性の精査
- キャッシュレス化の推進に関する課題の整理、定額タクシー等の実施に関する課題の整理
- 隙間時間の有効活用の方法（空港の施設の活用）

第２回会議（１０月開催）での主な意見

■主な意見

分類	課題
費用	・GOアプリについて、かなりの投資が必要となるため、出来ない。 ・バスには補助金があるが、タクシーについて補助金の制度がない。 ・あとは体制、取組みなどの枠組み、お金の問題。 ・民間としては損益分岐点、利益がでるか、で成り立つかを考えている。そのために何のサポートがあるのか。絵に描いた餅だとついていけない。
人手不足	・多くのドライバーが辞めて、高齢ドライバーが残されている。 ・アプリで予約しても30分しないとタクシーが来ない。 ・一足飛びにキャッシュレス、交通系IC等の導入は困難。人口も少なく、なり手がいない。
リスク分担	・プラットフォームの成功した絵姿や先のリスクを誰が負担するのか、検討が必要。 ・リスクをどのようにとっていくのかが最後の出口での課題になる。
集客	・プラットフォームの周知も課題。ユーザー数、登録者数をどう増やすのか検討も必要。 ・観光客にまずは来てもらう、お金を落としてもらう、滞在時間を増やしてもらう。 ・大阪万博2025開催で、海外来訪者もターゲットにし、関西インで鳥取へ向かわせる。
その他	・非レンタカーのお客さんは観光地を十分に回り切れていない状況がある。 ・地元の病院送迎の対応で、空港での車両待機は難しく、駅ですら待機車両が少ない状況。 ・鳥取港の魅力は十分にありながら、認知が十分にされていない。 ・バスの賀露循環路線はそもそもどこに行くのか分からないという状況。 ・行政やこの団体だったらこういうことができるなどを出し合った会議にすべき。 ・取組の仕組みは良いが、実際にお客さんに来てもらわないと困る。 ・鳥取空港から駅にお客さんが行く場合においてロッカーを探す際に、何か方法はないか。 ・例えば青山剛昌ふるさと館を通るバス車両の乗客は少ないと認識しており、この先も持続できるのか懸念がある。

第２回会議（１０月開催）での主な意見

■第１回会議の要点（再掲）

- 鳥取砂丘という目玉の観光地へのそもそもの移動手段がなく、移動方法の案内も不十分
- ループ麒麟獅子バス、賀露循環など、既存の路線バスの活用可能性の精査
- キャッシュレス化の推進に関する課題の整理、定額タクシー等の実施に関する課題の整理
- 隙間時間の有効活用の方法（空港の施設の活用）

■第２回会議の要点

- レンタカー利用者と非レンタカー利用者で行動範囲に違いが見られた
- 調査結果を踏まえた３つの出口戦略については概ね問題なし、あとは体制、役割分担の整理
- プラットフォーム構築が鍵、成功した絵姿やリスク分担を明確にすることが必要
- タクシーアプリ、ICカード対応などは、事業者の体力面で厳しく、電子チケット対応が現実的
- 一足飛びにキャッシュレス化、ICカード対応は非現実的、可能な取組みから実施すべき
- 大阪万博2025年、海外来訪者など、具体的なターゲット、期間を設定すべき

■総括

- **３つの出口戦略に関して、体制、役割分担、リスク分担を踏まえた絵姿の明確化**が必要
- 二次交通全体でのキャッシュレス化という大きな将来像はあるが、**実現性も踏まえ、電子チケット対応など、可能な取組みから実施すべき**
- 上記に関連し、**既存の路線バスの有効活用、定額タクシーの活用等の検討**が必要
- 移動だけでなく、**観光地での活動、空港での隙間時間の過ごし方についても連携**が必要
- **ターゲットも明確化**（大阪万博2025、海外来訪者等の取り込みなど）
- プラットフォーム自体の進め方の整理、**個別のコア会議**の必要性

（仮称）
鳥取空港航空機利用・地域交通戦略

©YACHIYOEngineeringCo.,Ltd.

資料２

１．出口戦略の基本的な方向性

・計画の背景、目的
・計画の期間
・空港二次交通の将来像と３つの出口戦略

©YACHIYOEngineeringCo.,Ltd.

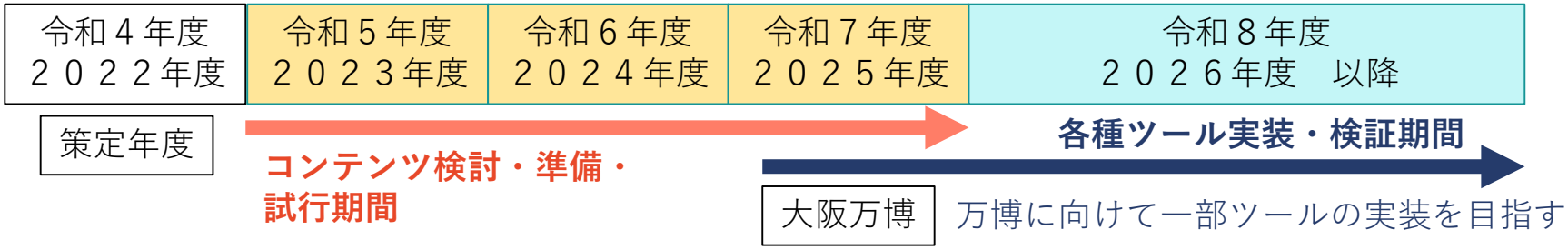
1．出口戦略の基本的な方向性

（1）計画の背景と目的

- 鳥取県では、“鳥取空港（愛称：鳥取砂丘コナン空港）は、首都圏や海外からの空の玄関口！ここから、鳥取観光・滞在がスタート！”をテーマに「鳥取砂丘コナン空港を拠点とした賑わいづくり事業」を推進している。
- 一方、現状において、県民などからの声として、「鳥取に来て欲しいアピールは見受けられるが、鳥取空港から先のアクセスに配慮が足らない。送迎無しで、自分の足で確かめて欲しい。」、「鳥取大学前駅までのシャトルバスを設けて欲しい（最寄り駅にアクセスした方がいい）。」、「倉吉駅方面行きバスの途中下車できるポイントを増やして欲しい。」、「夜便到着時のタクシーを増やして欲しい。」および「鳥取空港と鳥取港・鳥取砂丘を行き来しやすくして欲しい。」という意見（要望）がある。
- このような意見を踏まえ、鳥取空港・鳥取港をセットにしたツインポート、鳥取空港ビル内の大江ノ郷自然牧場・すなば珈琲・コナングッズショップ等のテナント、そして、名探偵コナンの装飾など鳥取空港の持つポテンシャルを活かしつつ、ANAホールディングス(株)、県内交通事業者を含む地元・民間・学術・行政等の多機関が連携し、観光振興・ワーケーション推進と住民生活維持の「融合」を目指した公共交通網の点検・再構築を行い、地域活性化を進める。併せて、アフターコロナを見据えて、今後見込まれる航空・観光需要の回復に速やかに対応できるよう施策を進める。
- 加えて、令和５年度以降は、鳥取空港においても国際線の再開（チャーター機）が想定されており、アフターコロナを見据えて国内線・国際線の航空機搭乗者を対象に、空港と観光地を結ぶ二次交通強化が必要となる。
- この取組の一環として、鳥取空港内に幅広い機関を構成員とする「鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム」を創設・設置し、前述のアフターコロナを見据えた航空機利用促進による観光振興・ワーケーション推進と、空港周辺の二次交通改善による住民生活維持の「融合」を目指した公共交通網の点検・再構築を行い、地域活性化に取り組む。

（2）今後数年間の進め方

- 今後３年間を検討、準備期間とし、2026年度以降での本格的な実装を目指す
- ただし、2025年に大阪万博が予定されており、一部ツールの実装化を目指す



1．出口戦略の基本的な方向性

（3）計画の期間で目指す変化

	課題	目指す方向性	5年間で目指す変化
出口戦略1「情報」	情報入手、発信、支払いの方法が統一されていない状況の解消	様々な情報、支払い方法を統合化、電子化	● 空港二次交通、観光情報が一元化されて提供されている ● 支払い方法が電子化されている ● これらの周知が適切に実施されている
	主なターゲットである関東からの観光客が日常的に利用するキャッシュレス決済への対応	各種空港二次交通でのキャッシュレス対応の徹底	
	モニタリング→改善が進められるDXの構築が必要	電子チケットの発行によるDX推進	※さらに将来： ・キャッシュレス決済の充実、情報に関するDX化
出口戦略2「移動」	観光移動、空港内観光後の移動、送迎の帰りの手段など、様々なニーズに対応した空港二次交通の確保	鳥取空港、鳥取砂丘、鳥取港、イオンモール、鳥取大学前駅へのアクセス性向上	● 空港～周辺の駅、観光地を結ぶ循環バスが高頻度で運行している ● 細やかなニーズに対応した定額（または乗合）タクシーが運行している
		鳥取大学前駅、鳥取駅での鉄道とバスの接続の向上	
	鳥取砂丘、青山剛昌ふるさと館以外の少数で多様な観光地へのアクセスの確保	タクシーを活用した個別輸送への対応	※さらに将来：鉄道とバスの乗継改善
出口戦略3「活動」	鳥取港（賀露）など活かされていない資源の活用	鳥取港（賀露）の物産と航空機輸送の連携	● 各観光地で電子チケット、クーポン等の対応がされている ● 鳥取港（賀露）での物産と航空機輸送が連携している ● 空港や空港二次交通に関するユニバーサルデザイン情報が発信されている
	観光地でのキャッシュレス対応の連携	各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応	
	空港、観光地におけるUD対応	移動～活動でのUD情報の発信	
	空港での多様な活動への対応	空港設備の充実	※さらに将来：空港の食、物産、ﾜｰｸｽﾍﾟｰｽ等の充実

1．出口戦略の基本的な方向性

（4）出口戦略の全体像

自宅

TAXI

主要空港

鳥取砂丘コナン空港

TAXI

青山剛昌ふるさと館
赤瓦、鳴り石の浜

鳥取砂丘
白兎神社、砂の美術館

鳥取港かろいち
ツインポート

水木しげるロード
米子・松江・大山

鳥取城跡
イオンモール鳥取、鳥取駅

出口戦略１：「情報」
～情報や支払い方法の統合～

○情報プラットフォームの創設による、様々な情報、支払い方法の統合化、電子化

一連の案内を
ANA空港アクセスナビで案内

情報プラットフォーム（ホームページ）へ案内

- 本プラットフォームが中心となり構築
- 空港二次交通、観光地情報の案内一元化
- 各種電子チケットを発行

交通機関、観光地関連の電子チケットへ誘導

出口戦略２：「移動」～空港二次交通の新規構築～

- **空港～鳥大前駅～イオン～砂丘～鳥取駅等をつなぐ空港連絡バスの見直し、拡充**（空港の発着時刻によらない運行とし、空港機能向上と連携）
- **鳥取港（賀露）【食】へのアクセス向上**
- 鉄道とバスとの接続を強化し、広域移動へ対応

出口戦略３：「活動」～観光地と空港二次交通の連携～

- **鳥取港（賀露）の物産と航空機輸送の連携**
- **各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応（マイル、ポイント付与など）**
- 観光地におけるUD対応（鳥取砂丘の車椅子等）の積極発信、空港二次交通との連携

３つの出口戦略が相互に連携し、情報でつながることで、データが蓄積・フィードバックされ、更なる利便性の向上を目指す（DXの推進）

1．出口戦略の基本的な方向性

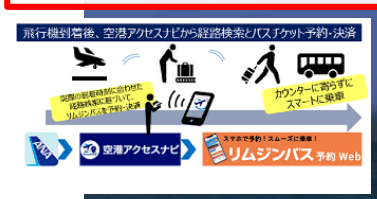
（4）出口戦略の全体像

出口戦略１：「情報」～情報や支払い方法の統合～

- ✓ ANAアプリ、情報プラットフォームを中心とした**情報、予約・支払いの一元化、電子チケット等の構築**
- ✓ **インセンティブ（ポイントやクーポン）**付与等によるお得感の創出
- ✓ **空港での**二次交通、滞在時間を含めた所要時間の目安、バリアフリー、ワーケーション、コナン装飾等の**案内充実**

出口戦略２：「移動」～空港二次交通の新規構築～

- ・空港～鳥大前駅～イオン～砂丘～鳥取駅等をつなぐ**空港連絡バスの見直し、拡充　→空港の発着時刻によらない運行**とし、空港機能向上と連携
- ・鉄道とバスとの接続を強化し、広域移動へ対応
- ・鳥取港（賀露）【食】へのアクセス向上（市場との連携向上含む）
  →レンタサイクル等の案内を強化し、「最後の立寄地」としてPR
- ・**駐車場有料化**（管理体制強化、二次交通施策の原資獲得）
- ・**タクシー予約、配車一元化**



出口戦略３：「活動」
～観光地と空港二次交通の連携～

- ● **鳥取港（賀露）の物産と航空機輸送の連携**
- ● **各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応（マイル、ポイント付与など）**
- ● 観光地におけるUD対応（鳥取砂丘の車椅子等）の積極発信、空港二次交通との連携

1．出口戦略の基本的な方向性

（5）情報プラットフォーム構築のイメージ

航空機利用者の流れ

飛行機の
予約・購入
移動手段検索

ANA予約サイト → 誘導 → **空港アクセスナビ**　　**鳥取空港HP**

・飛行機の予約・購入

・鳥取空港～目的地間の移動経路検索

これらのサイト・アプリでバナー広告を掲載し、予約・購入者を誘導

鳥取県内の
移動手段決定
チケット購入

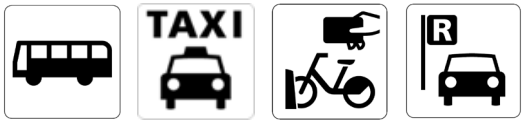
情報プラットフォーム（ホームページ）

・本プラットフォームが主体となり、新たに構築
・各交通事業者の電子チケットの情報を一元化、WEB上で購入可能
・観光地情報、割引やクーポン等の情報も掲載
・観光地の入園、入館に関する電子チケットも購入可能

鳥取空港到着
移動・観光行動

各種交通機関の利用

・電子チケットを活用し移動



観光地の利用

・電子チケットの活用

本プラットフォームでこれらの利用状況を分析し、さらなる改善を加えていく（DX推進）

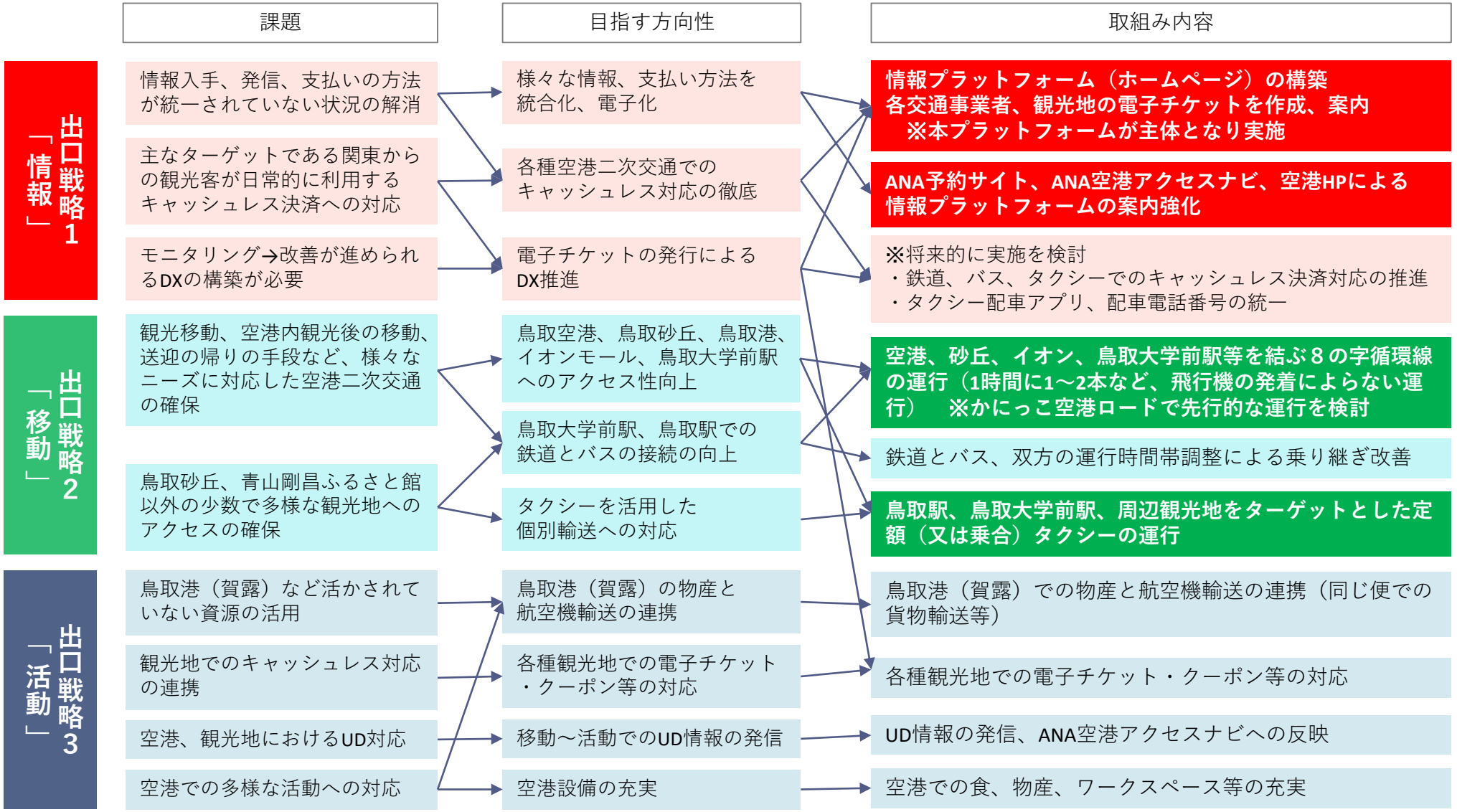
資料３
２．出口戦略の実施計画
（内容、役割分担、スケジュール）

・取組みの全体像
・実施スケジュール
・各取組みの詳細、実施イメージ

©YACHIYOEngineeringCo.,Ltd.

1．取組みの全体像

●情報プラットフォーム構築、８の字バス運行を軸に、各種取組みを展開



2．実施スケジュール

●計画３年目（令和７年度）での各種コンテンツの実装化を目指す

	取組み内容	R5年度 2023	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026以降
出口戦略１「情報」	情報プラットフォーム（ホームページ）の構築	内容検討	システム構築、試行期間		実装
	各交通事業者、観光地の電子チケットの構築	内容検討	システム構築、試行期間		実装
	ANA予約サイト、ANA空港アクセスナビ、空港HPによる情報プラットフォームの案内強化	周知方法検討		試行、実装	
出口戦略２「移動」	空港、砂丘、イオン、鳥取大学前駅等を結ぶ８の字循環線の運行	かにっこ空港ロードでの試行運行 路線検討	各種協議、申請等 準備、実験、一部試行期間	試行運行	本格運行
	鳥取駅、鳥取大学前駅、周辺観光地をターゲットとした定額（又は乗合）タクシーの運行	内容検討	事業者調整、システム構築期間		運行開始
出口戦略３「活動」	鳥取港（賀露）での物産と航空機輸送の連携（同じ便での貨物輸送等）	内容検討	業者間調整、試行期間		運用開始
	各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応	内容検討	構築		実装
	UD情報の発信、ANA空港アクセスナビへの反映	周知方法検討	先行発信		実装
	空港での食、物産、ワークスペース等の充実	内容検討、可能な取組みの実施			

3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略１「情報」

①情報プラットフォーム（ホームページ）の構築

現状	● フライト情報、空港二次交通の情報、観光地の情報、観光地までのアクセス情報等が個々の媒体（航空会社HP、空港HP、交通事業者HP、観光地HP、観光協会HP等）で発信されており、一元化された媒体が存在しない ● 公益社団法人鳥取観光連盟が運用する観光HP「とっとり旅」では、県内の観光地情報が網羅されており、連携が期待できる	
課題	● 情報入手、発信、支払いの方法が統一されていない状況の解消	
取組内容	● 観光連盟のHP「とっとり旅」と連携するプラットフォームHPを作成 ● 電子チケットや空港UD情報の掲載も併せて行う ● 目的地ごとの二次交通の案内、紹介チラシ、ルートマップ等の作成、配布、HP掲載 ● 航空機予約情報、電子チケット購入状況などの連携を行い、需要の集中具合の把握、モニタリング→改善というDX推進を図る	
役割分担	空港（会議体）	プラットフォーム構築の外部委託、情報管理、運営スキーム検討
	商工会等	観光関連、施設関連の情報提供、HP活用検討
	航空会社	フライト情報、予約状況の提供
	交通事業者	管理者として入手すべき情報の整理
	外部委託	プラットフォーム機能検討業者、電子チケット作成業者
実施スケジュール	1年目：プラットフォームの構成要素検討、空港やHPで掲示する観光地までの二次交通のチラシ検討 2～3年目：プラットフォームの具体構築 4年目以降：実装	

＜参考事例＞

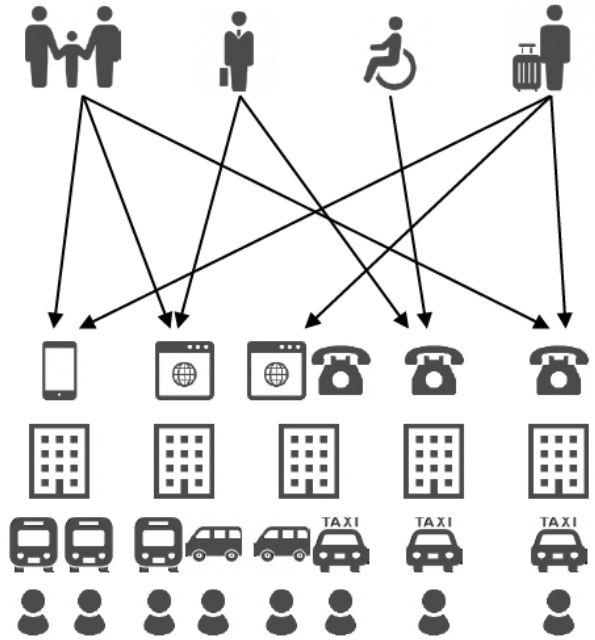
佐渡島における島内交通事業者のリソース集約の考え方

情報プラットフォーム（ホームページ）の構築として参考

・これまで、利用者自身が各交通機関にアクセスし、交通機関の運行情報の検索、予約、支払い等が必要となっていた。
・今後、交通インフラ連合を構築し、情報を一本化、支払い等も電子化を予定
・これらをDB連携し、本土と島を結ぶ船舶の運行状況との連携、利用実態モニタリングによるDX推進を目指す

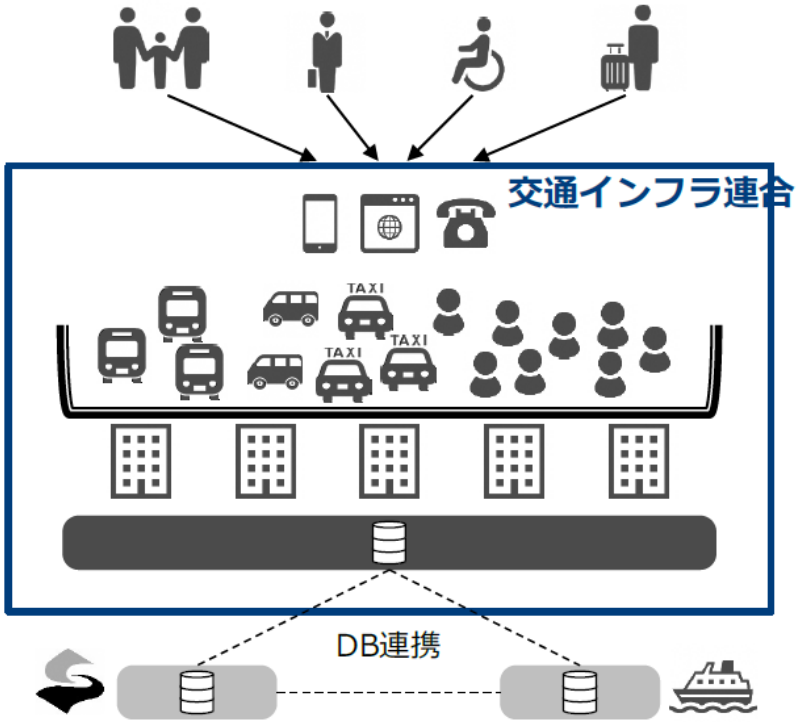
現状

- 各社のリソース不足等による限定的サービス
- バラバラな利用者接点



あるべき姿

- 各社のリソース・情報の統合によるサービスの充実
- 統一された分かり易い利用者接点

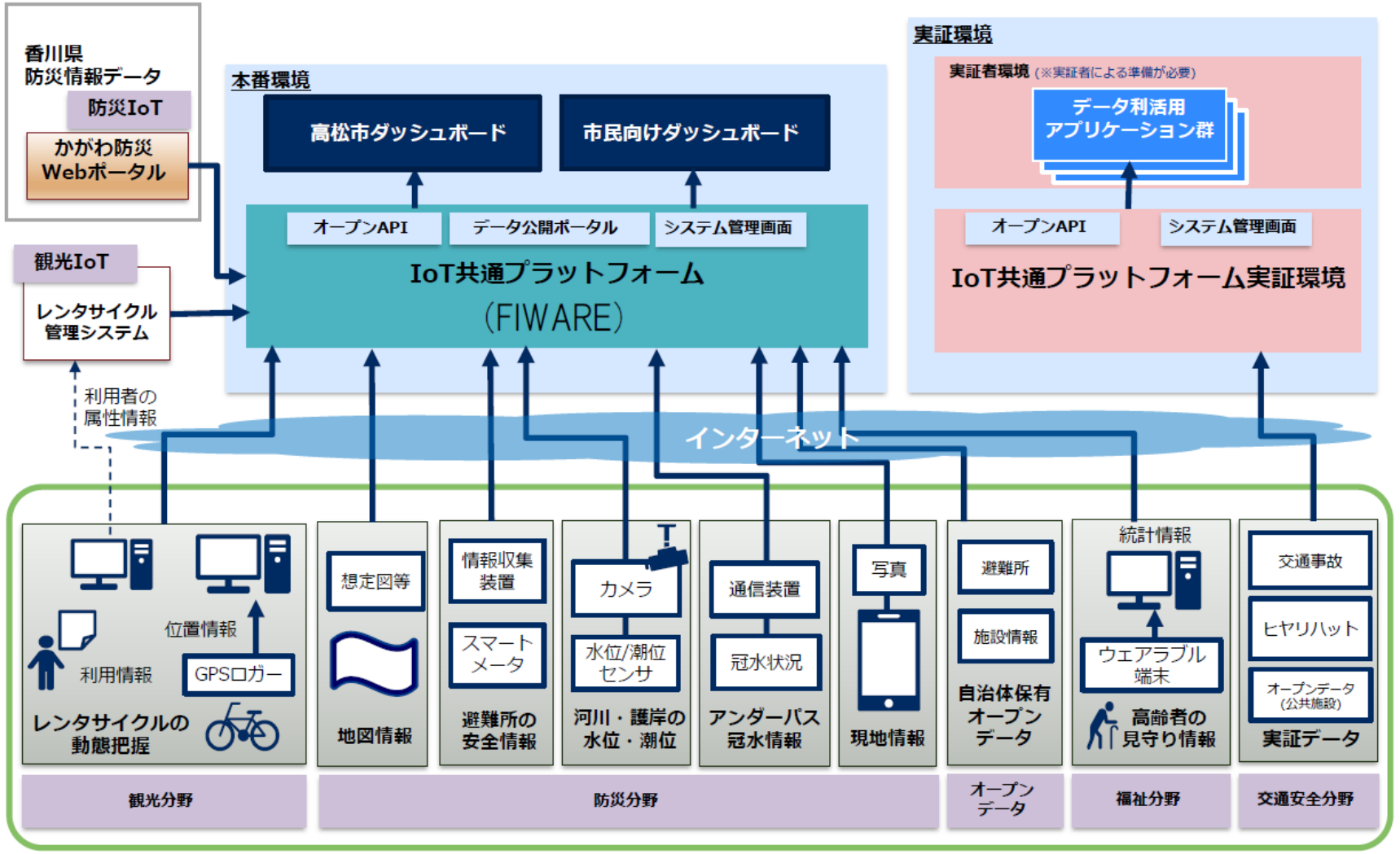


＜参考事例＞

高松市におけるDX推進の構想（スマートシティ構想）

情報プラットフォーム（ホームページ）の構築として参考

・デジタル社会構築の柱として、IoT共通プラットフォームの構築を目指している

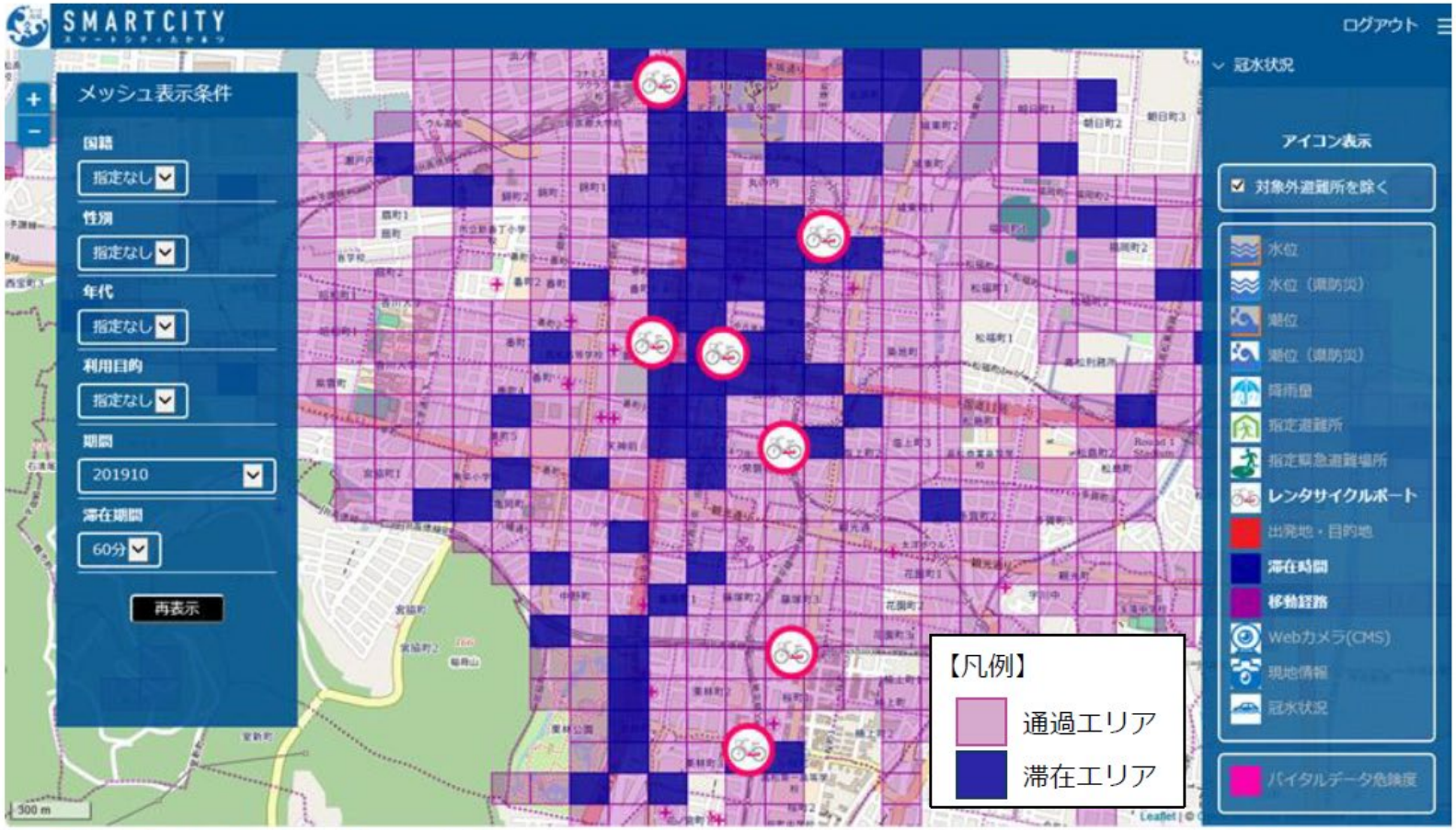


＜参考事例＞

高松市におけるDX推進の構想（スマートシティ構想）

情報プラットフォーム（ホームページ）の構築として参考

・レンタサイクルにGPSロガーを取り付け、観光客の移動を可視化、更なる取組み実施への参考として活用



・利用者の出身内訳は韓国（42%）、中国（23%）、台湾（13%）、香港（13%）等

・韓国・中国はショッピングの目的地が多い、欧米・香港は周遊範囲が広い、台湾は周遊範囲が狭い等、一定の傾向が観測できる。

＜参考：観光連盟HP「とっとり旅」の内容＞

- 県全体の観光地情報を網羅、食や買い物などの情報も網羅されている、また、ANAのそらたびのリンクもあり
- 観光地へのアクセス情報も掲載されているが、電子チケットとの連携も進めることで、利便性の向上が可能

＜参考：自治体、民間事業者ヒアリング結果＞

✓自治体：高松市、前橋市

- 高松市、前橋市では、公共交通関連のプラットフォーム整備、DX化を推進している（前橋市はマイナンバー制度を活用）
- 両市とも、鳥取県では公益社団法人鳥取観光連盟が主体となって運営している「とっとり旅」について、県全域の観光地情報が網羅されており、新たにHPを作成するより、プラットフォーム機能及び電子チケット掲載を同HPで実施する方が現実的とのアドバイスをいただいている
- **また、プラットフォーム機能については、利用者への案内強化だけでなく、プラットフォーマー及び交通事業者、商工関係者等の参画事業者が、どのようなデータを取り扱い、どのようにモニタリングするか、を事前に綿密に検討が必要と指摘**

✓民間事業者（３社に実施）

- 活用すべきHPについては、自治体と同様の見解
- 既存HP活用のため、必要経費については不明であったが、一から構築の場合は数百～数千万円とのこと
- **プラットフォームや電子チケットの構築については技術的に難しくないが、バス事業者やタクシー事業者については、営業所でのチケット購入状況の確認、運転手への連絡や受け入れ態勢の構築など、業務の進め方について見直しが必要となり、この準備に時間を要する**

✓「とっとり旅」HP運営者（鳥取観光連盟）への確認結果

- 「とっとり旅」のHP機能拡張については、県もしくは本会議体から要請があれば、検討可能（費用面は仕様が固まってから判断）

＜参考：情報プラットフォームの進め方＞

- 情報プラットフォームの構築については、活用するHPやツールによって複数の案が考えられ、令和5年度以降、外部企業も交えながら、空港利用者やサービス提供者にとって望ましい手法を検討する

	案１	案２	案３
	「とっとり旅」に全てを集約	**「とっとり旅」から新たなHPに誘導**	**新たなアプリを構築**
構築イメージ	● **現在の「とっとり旅」で観光と二次交通、両方の案内と電子チケット購入機能を付与** ● 「とっとり旅」の構成内容を大幅に見直し、プラットフォーム機能を設ける	● **「とっとり旅」の機能拡張は最小限**（電子チケットへの案内のみ）とする ● **電子チケットの購入サイトは本プラットフォームで新たに構築**	● **新たにアプリを構築**し、空港二次交通に関する電子チケット購入機能を設ける ● ANAのHPや「とっとり旅」などから、アプリへの誘導を図る
利点	● **空港利用者にとっては、情報が集約されており、わかりやすい** ● サービス提供者にとっては、新たなHPの作成が不要となる	● 新たにHPを作成し、本プラットフォームで管理することで、**関係者のバックデータへのアクセスが容易**となる ● **電子チケットの様式等について、統一した規格での販売が可能**	● ユーザーがアプリを介することで、位置情報やユーザー情報の紐づけが容易となり、モニタリング、改善の検討が容易となる ● 国の進めるスマートシティ構想やDX推進と連携することで、予算取りで有利
実現に向けたハードル	● **「とっとり旅」に電子チケット購入機能を付与する場合、その責任を観光連盟が負う必要があり、実現が困難** ● **本プラットフォームに属する関係者によるバックデータの閲覧について、実現が困難**	● **案１、案３と比較し、検討面でのハードルは低いが、利用者への周知の課題が残る**	● **案２と同様に、利用者への周知の課題が残る** ● **案１、案２と比較し、アプリ構築については費用が多額となる**

これらの案の利点、ハードルを踏まえ、案２をベースに検討を進める

＜参考：空港からのアクセス情報のチラシ例＞

- 長崎県の平戸温泉では、九州地方の玄関口である博多駅や福岡空港から温泉までのバスを運行しており、HP等でチラシを公開している

3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略１「情報」

②各交通事業者、観光地の電子チケットの構築

現状と課題	● 空港二次交通のうち、キャッシュレス決済対応は一部（空港連絡バス、一部のタクシー事業者）であり、利用者からはキャッシュレス決済対応のニーズが多く見られる ● 一方、事業者の体力面の課題もあり、早期のキャッシュレス対応は困難であることから、インフラ整備を必要としない電子チケットサービスの展開を図る	
課題	● 主なターゲットである関東からの観光客が日常的に利用するキャッシュレス決済への対応	
取組内容	● 空港二次交通である路線バス、タクシーについて、空港～目的地間の電子チケットを発行 ● プラットフォームにおいて、電子チケットを公開 ● 空港ビルが主体となり、実現のハードルが低い取組み（滑走路の見学チケット、空港で利用可能なレンタサイクル等）については電子チケット化を早期に進める	
役割分担	空港（会議体）	電子チケット構築に関する委託管理
	商工会 各市町観光協会	観光地関連のチケット化検討
	交通事業者 県、市町村 協会	実施可能な電子チケットの検討 運輸連合の構築を含め、運輸連合側でチケットの販売管理、事業者配分等を実施するための仕組み検討
	外部委託	プラットフォーム機能検討業者、電子チケット作成業者
実施スケジュール	1年目：交通事業者と実施可能な電子チケット検討 2～3年目：外部委託を交えた電子チケットの構築 4年目以降：実装	

＜参考事例＞

JR東日本による長野県北信濃地域のMaaS事業

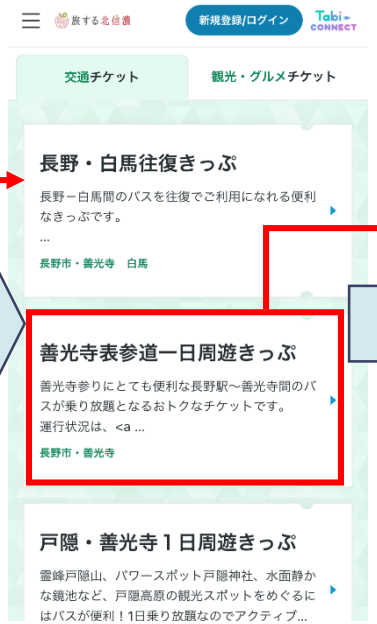
情報プラットフォーム（ホームページ）の構築として参考

・JR東日本が展開し、長野県北信濃地域において、交通と観光を融合したMaaS事業を展開
・スマートフォン専用のホームページにおいて、レンタカーやJREポイント等の案内を周知
・バス関連の周遊きっぷ、観光地の入館切符などをスマートフォン上で購入、利用可能

案内サイト（JR東日本）

スマートフォンでの画面

トップ画面



交通チケット

購入画面

＜参考事例＞

松山空港における空港連絡バスの電子チケット発行

各交通事業者、観光地の電子チケットを作成、案内

・ANA空港アクセスナビより、松山空港を出発する空港リムジンバスの電子チケットを購入可能

STEP1
ANA予約確認画面より
空港アクセスナビを選択

*画像はANAアプリのイメージです。ANAウェブサイトの予約詳細画面からもご利用いただけます。

*画像は空港到着から検索する場合のイメージです。

STEP2
空港アクセスナビにて
目的地を入力し、検索

*空港アクセスナビ経由で予約したチケットは、本画面右上のメニューからもご確認いただけます。

STEP3
結果画面にて該当チケットの予約ボタンを選択

STEP4
空港アクセスナビ専用
ページでチケットを購入
※ここでマイル登録！

STEP5
支払完了後、予約の詳細を
登録メールにて受信

＊決済機能はリンクティビティ㈱のシステムとなります。

※画像はすべてイメージとなり今後変更になる場合がございます。

＜参考事例＞

松山空港における空港連絡バスの電子チケット発行

各交通事業者、観光地の電子チケットを作成、案内

・購入後、バス利用時に運転手に画面を見せるため、バス事業者によるインフラ投資が不要

＜参考事例＞

空港送迎サービス「nearMe.Airport」

各交通事業者、観光地の電子チケットを作成、案内

・国内の主要空港を対象に、空港送迎を実施、マッチングアプリを利用し、乗合が発生する場合もあり

＜参考事例＞

空港送迎サービス「nearMe.Airport」

・ANA空港アクセスナビとの連携、南紀白浜空港において本格実施

各交通事業者、観光地の電子チケットを作成、案内

ANA予約サイト、ANA空港アクセスナビ、空港HPによる情報プラットフォームの案内強化

ANA空港アクセスナビとの連携

南紀白浜空港での実装

まずは空港からの2次交通問題の解決のために3社協業がスタート

Step1: **空港を起点とした移動サービス**
→空港利用客の移動の不便さを解消

Step2: **ホテル→観光地への移動**
→空港だけでなく駅利用客も含めた移動の不便さを解消

Step3: **地域住民の日常の移動**
→補助金に頼らない、持続可能性のある地域移動手段の提供、ワーケーションで来られた方の安心・安全な移動手段の確保

＜参考：民間事業者ヒアリング結果＞

電子チケットのプラットフォームを作成する民間事業者（２社に実施）

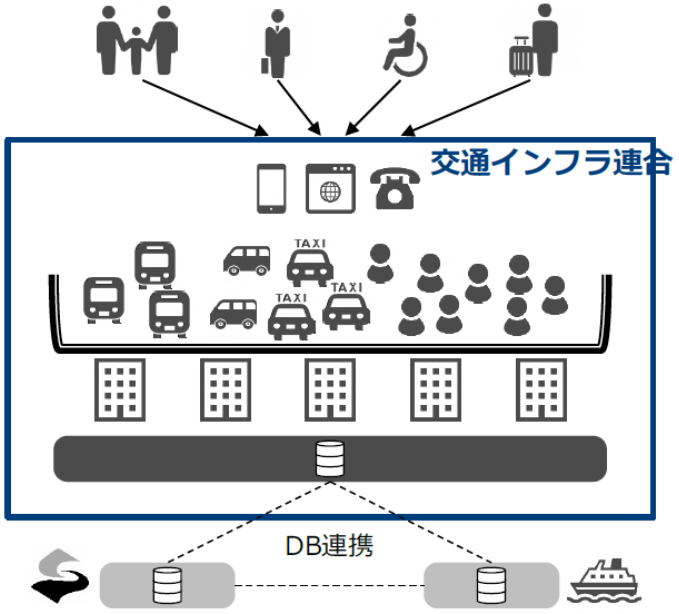
- 公共交通に限らず、幅広く電子チケットを販売する企業、タクシーに限定した定額チケットを販売する企業にそれぞれヒアリング
- バス、観光地については、既に国内各地でインフラ整備が不要な電子チケットが実装されており、技術的には問題ないとのこと、ただし、構築費、維持費（システム利用費等）が発生

- タクシーについては、現在、複数社が共同で実施するチケットは販売実績なし
- **（具体的な場所は明かしていないが）複数社が実施する電子チケットについては、会社ごとにチケットを設定し、それぞれ販売が現実的とのこと**
- **このとき、価格設定について各社での設定となり（同じ目的地になった場合でも）、金額調整等を行う場合、独禁法除外の適用など、地域公共交通計画（独禁法適用除外）との整合が必要となる**

- 複数社が営業する本地域において、担当エリアの調整、予約の集中等の回避の調整が課題
- ➢ 佐渡島において目指すような、交通インフラ連合の考えを取り入れ、供給状況や利用者の予約情報を一元化し、プラットフォームにおいて管理することが望ましい

あるべき姿

- 各社のリソース・情報の統合によるサービスの充実
- 統一された分かり易い利用者接点



佐渡島における島内交通事業者のリソース集約の考え方（再掲）

3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略１「情報」

③ANA予約サイト、ANA空港アクセスナビ、空港HPによる情報プラットフォームの案内強化

現状	● 情報プラットフォーム、電子チケットの構築にあたり、航空機利用者への周知が課題となる ● 航空機利用者の大半が閲覧する、ANAのHP、空港アクセスナビ、空港HPなどで周知を図ることにより、航空機利用者の誘導を促す	
課題	● 情報入手、発信、支払いの方法が統一されていない状況の解消	
取組内容	● ANAのHP、空港アクセスナビ、空港HPなどで情報プラットフォームに関する周知の実施 （バナー広告掲載、リンク先の追加等）	
役割分担	空港（会議体）	空港HPの見直し ANAでの周知方法に関する調整
	航空会社	周知可能なHP及び周知方法（バナー広告掲載か、空港アクセスナビの検索結果の一部として組み込むか）、条件（鳥取行き航空券購入者か、空港アクセスナビで鳥取方面を検索された方か）等を確認
実施スケジュール	１～２年目：空港（会議体）、ANAによる実施方法調整 ３年目以降：試行、実装	

＜参考：空港HPの改善例＞

広島空港におけるフライト情報と交通手段検索の統合

ANA予約サイト、ANA空港アクセスナビ、空港HPによる情報プラットフォームの案内強化

・空港HPのフライト情報において、発着便とともに前後の移動の検索も可能（ANA空港アクセスナビに移動）
・ANA空港アクセスナビにおいて、発着便に間に合うよう、出発地からの経路検索が可能
・情報プラットフォームとの連携により、さらに電子チケットの購入への誘導も可能

3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略２「移動」

①空港、砂丘、イオン、鳥取大学前駅等を結ぶ８の字循環線の運行

現状	● 空港からは鳥取駅方面、倉吉駅方面の2路線が空港連絡バスとして運行し、他に路線バス（賀露循環）が乗り入れているが、鳥取砂丘など、空港周辺観光地へのアクセスが限られている ● 空港周辺の主要施設（イオン、市役所、県庁周辺、鳥取駅周辺）での生活移動も見られ、空港アクセス移動、生活移動両面での移動に対応した循環バスを構築する	
課題	● 観光移動、空港内観光後の移動、送迎の帰りの手段など、様々なニーズに対応した空港二次交通の確保	
取組内容	● 既存路線（賀露循環またはループ麒麟獅子バス）を活用し、空港～鳥大前駅～イオン～砂丘～鳥取駅等を結ぶ循環路線を整備 ● 1時間に1～2本の運行など、高頻度かつ航空機の発着時間によらない運行とする ● 路線見直しに関連し、空港周辺のバスマップの作成や空港内掲示を実施 ● ８の字循環の一部となる「かにっこ空港ロード（空港～かろいち）」について、既存路線の活用または新規運行により、先行して運行を検討	
役割分担	空港（会議体）	路線見直しに関する実現性検証
	交通事業者（バス）	既存路線見直しの実施可能性検証
	鳥取県、鳥取市	県及び鳥取市の公共交通体系との整合性の確認、 路線変更に関する法定会議の開催、審議
実施スケジュール	１年目：路線の具体化検討 → **かにっこ空港ロードでの試行運行に向けた検討** ２～３年目：準備、実験運行期間 → **２年目：各種協議、申請等** ４年目以降：本格運行 → **３年目以降：試行運行**	

3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略２「移動」　**②鳥取駅、鳥取大学前駅、周辺観光地をターゲットとした定額（又は乗合）タクシーの運行**

現状	● 空港を出た方の目的地は大半が鳥取市内であり、砂丘や鳥取駅、県庁周辺のほか、多岐にわたっているが、これらに対応する移動手段がタクシーのみである ● 空港周辺の目的地について、電子チケット等を通じて案内でき、安心して利用できる環境の構築が必要である	
課題	● 鳥取砂丘、青山剛昌ふるさと館以外の少数で多様な観光地へのアクセスの確保	
取組内容	● 空港と空港周辺の主要目的地、観光地を結ぶ定額タクシーまたは乗合タクシーの運行実施 ● 電子チケット、情報プラットフォームと連携し、HPでの掲載、航空機予約情報との紐づけによるスムーズな利用を実現する	
役割分担	空港（会議体）	事業者間調整の実施、会議体での調整、運輸局調整 乗合タクシーに関する新規事業者との調整
	交通事業者（タクシー）	各事業者での実施可能な定額タクシーチケットの設定
	鳥取県、鳥取市	県及び鳥取市の公共交通体系との整合性の確認、 必要に応じた法定会議の開催、審議
実施スケジュール	１年目：事業実施内容検討、実現性検証 ２～３年目：事業者間調整、システム構築期間 ４年目以降：運用開始	

3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略３「活動」　**①鳥取港（賀露）での物産と航空機輸送の連携（同じ便での貨物輸送等）**

現状	● 鳥取港（賀露）は空港周辺の主要観光地となり、海産物などの資源も有するが、時期によっては航空機利用者の来訪が限定的であり、認知度も低くなっている ● また、海産物やお土産の購入、輸送について、空港と鳥取港（賀露）との連携強化が意見として出ている	
課題	● 鳥取港（賀露）など活かされていない資源の活用	
取組内容	● 鳥取港（賀露）で購入した海産物の航空機輸送、空港での受取等について連携実施	
役割分担	空港（会議体）	鳥取港（賀露）、県観光協会、配送関連（配送事業者、ANA）との調整
	航空会社	貨物輸送の連携について確認
	観光協会、商工会	貨物輸送の連携、空港での受取等について確認
実施スケジュール	１年目：実施内容検討 ２～３年目：関連業者間調整 ４年目以降：運用開始	

3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略３「活動」　**②各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応**

現状	● 関東圏からの観光客の要望として多いキャッシュレス対応について、観光地での対応が不足	
課題	● 観光地でのキャッシュレス対応の連携	
取組内容	● 観光地の電子チケットを発行 ● プラットフォームにおいて、電子チケットを公開 ● 航空機予約情報、電子チケット購入状況などの連携を行い、需要の集中具合の把握、モニタリング→改善というDX推進を図る	
役割分担	空港（会議体）	電子チケット構築に関する委託管理
	各市町観光協会、商工会	観光地関連のチケット化検討
実施スケジュール	１年目：実施内容検討 ２～３年目：電子チケット構築 ４年目以降：実装	

3．取組みの具体内容、実施イメージ

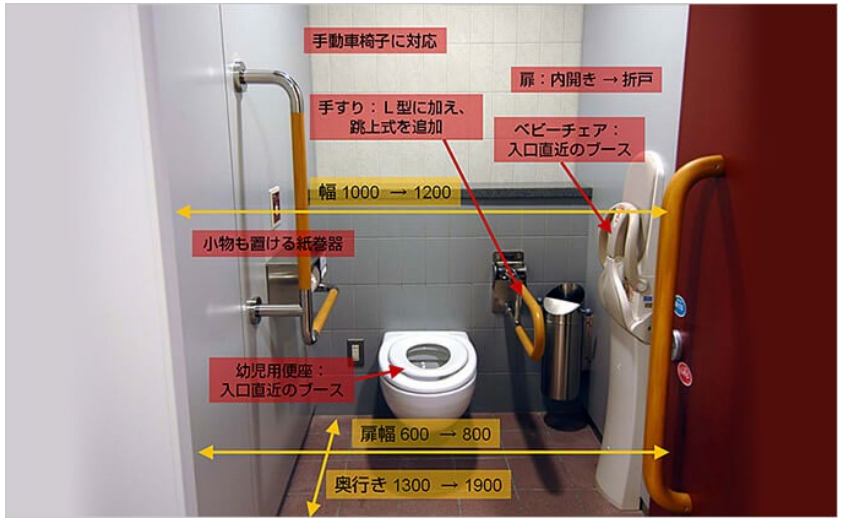
出口戦略３「活動」　**③UD情報の発信、ANA空港アクセスナビへの反映**

現状	● 鳥取空港内のバリアフリー化は概ね実施されているが、トイレに関する車椅子利用のしやすさ向上、バリアフリー関連情報の発信、二次交通利用時の情報発信等で課題あり	
課題	● 空港、観光地でのUD対応	
取組内容	● 空港UD情報の発信 ● 空港UD診断による調査、施設改善 ● ANAの空港UDMaaSとの連携検討	
役割分担	空港（会議体）	空港HPでのUD情報の発信 空港UD診断の実施、施設改修
	各市観光協会、商工会	観光地関連のUD情報のHPでの発信検討
	航空会社	空港UDMaaSで実施可能な内容の検討
	交通事業者	運用車両に関するUD情報の提供
実施スケジュール	１年目：周知方法、内容検討 ２～３年目：情報構築、先行発信 ４年目：実装	

＜参考：空港UDの取組み事例＞

中部国際空港におけるUD診断、改修例

・学識者が参画するUD診断を経て、ユニバーサルデザインに配慮したトイレの整備等を実施（他には使いやすいEV、スロープ等）



3．取組みの具体内容、実施イメージ

出口戦略３「活動」　**④空港での食、物産、ワークスペース等の充実**

現状	● 空港の施設については、利用者からは概ね公表を得ているが、ネットワークセキュリティの確保されたWiFi、ワークスペース等の確保、食事や物産の充実といった意見が見られる	
課題	● 空港での多様な活動への対応	
取組内容	● 飲食施設、物産施設の拡充検討 ● WiFi設備、ワークスペース等の確保検討	
役割分担	空港（会議体）	施設拡充検討、プレイルーム等の設置検討
	各市観光協会、商工会	物産店、飲食施設等の設置可能性検討
実施スケジュール	１～４年目：内容検討 実現可能な取組みの実施（特にWiFiは3年目の実装を目指す）	

資料４

３．令和５年度以降の進め方

©YACHIYOEngineeringCo.,Ltd.

令和５年度以降の進め方

全体会議

本プラットフォーム（毎年度、２回程度実施想定）
・全体の取組み実施状況の確認
・個別の取組みに関する調整状況の確認、実施可否の確認

各作業部会で取組みの具体内容を検討し、本プラットフォームで最終確認、実施

個別作業部会

	取組み内容	航空会社	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	商工、観光関係	外部企業	空港ビル	県、市町
作業部会1「情報」	情報プラットフォーム（ホームページ）の構築 各交通事業者、観光地の電子チケットの構築 ANA予約サイト、ANA空港アクセスナビ、空港HPによる情報プラットフォームの案内強化	●	○	○	○	○	○	●	○
作業部会2「移動」	空港、砂丘、イオン、鳥取大学前駅等を結ぶ８の字循環線の運行 鳥取駅、鳥取大学前駅、周辺観光地をターゲットとした定額（又は乗合）タクシーの運行			●	○		○	●	○
作業部会3「活動」	鳥取港（賀露）での物産と航空機輸送の連携（同じ便での貨物輸送等） 各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応 UD情報の発信、ANA空港アクセスナビへの反映 空港での食、物産、ワークスペース等の充実	○		○	○	●	○	●	○

●：作業部会リーダー（仮）　○：作業部会構成メンバー

令和５年度以降の進め方

作業部会１「情報」について

	取組み内容	航空会社	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	商工、観光関係	外部企業	空港ビル	県、市町
作業部会1「情報」	情報プラットフォーム（ホームページ）の構築 各交通事業者、観光地の電子チケットの構築 ANA予約サイト、ANA空港アクセスナビ、空港HPによる情報プラットフォームの案内強化	●	○	○	○	○	○	●	○

●：作業部会リーダー（仮）　○：作業部会構成メンバー

	取組み内容	R5年度 2023	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026以降
出口戦略1「情報」	情報プラットフォーム（ホームページ）の構築	**内容検討** →	**システム構築、試行期間** →		**実装** →
	各交通事業者、観光地の電子チケットの構築	**内容検討** →	**システム構築、試行期間** →		**実装** →
	ANA予約サイト、ANA空港アクセスナビ、空港HPによる情報プラットフォームの案内強化	**周知方法検討** →	→	**試行、実装** →	→

令和５年度以降の進め方

作業部会２「移動」について

	取組み内容	航空会社	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	商工、観光関係	外部企業	空港ビル	県、市町
作業部会2「移動」	空港、砂丘、イオン、鳥取大学前駅等を結ぶ８の字循環線の運行 鳥取駅、鳥取大学前駅、周辺観光地をターゲットとした定額（又は乗合）タクシーの運行			●	○		○	●	○

●：作業部会リーダー（仮）　○：作業部会構成メンバー

	取組み内容	R5年度 2023	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026以降
出口戦略2「移動」	空港、砂丘、イオン、鳥取大学前駅等を結ぶ８の字循環線の運行	かにっこ空港ロードでの試行運行 路線検討	各種協議、申請等 準備、実験、一部試行期間	試行運行	本格運行
	鳥取駅、鳥取大学前駅、周辺観光地をターゲットとした定額（又は乗合）タクシーの運行	内容検討	事業者調整、システム構築期間		運行開始

令和５年度以降の進め方

作業部会３「活動」について

	取組み内容	航空会社	鉄道事業者	バス事業者	タクシー事業者	商工、観光関係	外部企業	空港ビル	県、市町
作業部会３「活動」	鳥取港（賀露）での物産と航空機輸送の連携（同じ便での貨物輸送等） 各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応 UD情報の発信、ANA空港アクセスナビへの反映 空港での食、物産、ワークスペース等の充実	○		○	○	●	○	●	○

●：作業部会リーダー（仮）　○：作業部会構成メンバー

	取組み内容	R5年度 2023	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026以降
出口戦略３「活動」	鳥取港（賀露）での物産と航空機輸送の連携（同じ便での貨物輸送等）	**内容検討**	**業者間調整、試行期間**		**運用開始**
	各種観光地での電子チケット・クーポン等の対応	**内容検討**	**構築**		**実装**
	UD情報の発信、ANA空港アクセスナビへの反映	**周知方法検討**	**先行発信**		**実装**
	空港での食、物産、ワークスペース等の充実	**内容検討、可能な取組みの実施**			

参考：（仮称）鳥取空港航空機利用・地域交通戦略の構成内容

● 令和４年度の検討の成果として、冊子にとりまとめる。構成（案）は以下のとおり。20～30ページを予定。

大項目	小項目
はじめに	・計画策定の背景 ・計画策定の目的 ・計画スケジュール ・プラットフォームの位置づけ
１．空港及び二次交通の現状	・鳥取空港の利用状況の推移 ・空港二次交通の整備状況 ・アフターコロナを見据えた動き（国際線再開、万博等）
２．空港二次交通の課題	・令和４年度実施の各種調査結果のまとめ ・空港二次交通の解決すべき課題
３．出口戦略の基本的な方向性	・目指す姿、現状からの変化 ・「情報」「移動」「活動」の３つの出口戦略の柱、全体像 ・情報プラットフォーム構築の概念
４．個別の取組み内容	・取組みの全体像、スケジュール ・個別の取組み内容、役割分担
５．今後に向けて	・令和５年度以降の進め方、役割分担
参考資料	・各種調査結果 →空港利用者に関するアンケート調査 →県民に関するアンケート調査 →携帯GPSデータ分析 →関係者へのヒアリング調査